

めでいかすたる

Médicastre



「鳥海山麓の一の滝（遊佐町）」

鶴岡地区医師会

19年 10月号

鈴木伸男先生、救急医療功労厚生労働大臣表彰受賞 まことにおめでとうございます



救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞して

鈴木伸男

去る9月10日に、厚生労働省で標記を受賞してきました。

私が救急医療に携わっていたのは荘内病院に勤務していたときですので、このたびの表彰はそれに関連するものであり、評価の対象は私個人ではなく、荘内病院であると認識しております。従いまして、一緒に働きました荘内病院のOBならびに現役の職員とともに喜びたいと思っています。

当時、急患で真夜中に病院に呼ばれたり、徹夜で急患の手術をしたり、あるいは急患室で新年を迎えたりしましたが、今になってみるとそれも懐かしい思い出です。

余談になりますが、表彰式の際に、できたら舛添大臣から直接もらいたいな、とひそかに期待をしていましたが、当日は臨時国会のために、表彰は代理の方からで、いささか残念な思いをしました。

先日、奈良県で妊婦さんのたらいまわしというあるまじき事件がおきました。その点、当地域では荘内病院が中心となって休日夜間診療所あるいは各医療機関が手を携えて救急医療に当たっているところではありますが、なお、今後のさらなる充実を念願しております。

最後に、救急医療に因んで詠んだ短歌を紹介させていただきます。

急患の手術をしつつ年越すを 苦とも思わぬ 若き日のあり
「急患室」テレビドラマは恰好よし われの記憶は 忙しさだけ
防災ヘリ 屋上ポートに舞い降りぬ 新病院の 開院近く



コーチング理論に基づく「医療コミュニケーション研修」に参加して

中村内科胃腸科医院 中村 秀幸

医師会勉強会でも講演された東北大学の出水（いずみ）教授の声がかりで、7月21日と22日の二日間、参加しました。参加者は私を入れて20人程で、講演とその理論に基づいた2-3人の少人数に分かれてのコミュニケーションスキルの実習（ロールプレイ）です。

コーチ（Coach）の語源は、「馬車で目的地まで送り届ける」という具体的な意味から「目標を達成させる」という意味で使われるようになったようです。名選手は名監督たりえるか？という最初の問いかけから始まりました。育成、指導の能力（コーチング能力）と仕事を遂行する専門領域の能力とは異なります。自分の経験や知識などを相手に伝える「ティーチング」と相手の能力や自発性を引き出す「コーチング」は全く別の能力です。

「コーチング」とは、会話をしているその人の目標を達成するために、その人に必要な知識や技術、ツールが何であるかを見つけ出し、それを相手に備えさせるプロセスです。

二人で組んで、徹底的に傾聴することを学びました。

コーチングカンパセッションとは、聞く（コーチ役）が相手の話を傾聴することで、相手は安心感を持ち、目標の決定や現状の把握、ギャップの分析ができ、具体的な行動につながります。コーチ役はまた、質問や承認、提案や情報を相手に提示することで、相手から引きだしたり、新たな気づきを発見することにもなります。

2日目は、コミュニケーションスキルの大きなポイントである「質問」について。質問の目的は情報収集、原因を見つける、知らないことを聞く、考えさせる、視点を変える、具体的にさせる、気分よく話させる、話のきっかけをつくる、本音を知る、などなど。

もうひとつのポイントは「タイプ別け」です。人はそれぞれ違った性格、タイプがあって、それぞれに同じ質問をするにしても、それぞれのタイプに応じて異なったアプローチがあります。それにより効果的なコミュニケーションの戦略が可能になります。

タイプには4つあります。コントローラー、プロモーター、アナライザー、サポーターです。コントローラーは行動的でエネルギー、起業家タイプ、プロモーターはアイデアが豊富で社交的、熱しやすく飽きっぽいタイプです。アナライザーは慎重な行動で、冷静で客観的、計画や分析するのが好きなタイプです。サポーターは人を援助することを好む、強調性があり暖かく穏やかで気配り上手なタイプです。

相手がどういうタイプかを認識することで、「自分が判断したい」コントローラーには、こちらからコントロールせず結論から尊敬の念を忘れずに単刀直入に話す。「他者に影響したい」プロモーターには自由にその人のオリジナリティを尊重しポジティブに。「合意したい」サポーターにはコミュニケーションを切らず気持ちを伝え、ノンバーバルに気を使う。「正確でありたい」アナライザーには、理由や具体性を大切にする、外面では判断せず本人のペースを尊重する。

この研修で学んだスキルをいかに実践し、患者さんとのよいコミュニケーションがとれるか、会話をいかに楽しむか、悪戦苦闘の毎日です。

第 54・55 回 庄内 ICLS コース in 庄内病院

日時：平成 19 年 9 月 8・9 日(土・日)

場所：庄内病院 3 階講堂

リハビリテーションセンター

鶴岡市立庄内病院 看護師 齋藤 明美

庄内 ICLS コースは、当院において 3 回目の開催となりました。他施設、他職種の方々の多大なご協力を得て、無事終了できた事をご報告いたします。48 名の枠に、実に 100 名以上の応募があり、当地区の皆様のご期待に充分答えられなかったことを残念に思っております。アンケート結果からは、概ね好評のご意見を頂いております。

病院や町の中で、突然人が倒れたらどうしますか？それが、かかりつけの患者さま、家族、友人であったらどうでしょう？目の前が真っ白になってしまうかもしれません。そんな時役立つのが BLS（一次救命処置）や ALS（二次救命処置）のコーストレーニングです。AHA（アメリカ心臓協会）の出している「心肺蘇生と救急心血管治療のための国際ガイドライン 2005」がその基本となっています。国際ガイドラインとうたっている理由は、全世界共通の手技だからです。例えば私達が、ニューヨークやロンドンで人が倒れたところに居合わせた場合でも、まったく同じように蘇生が行われるのです。すなわち、救急蘇生に携わる人たちの共通語であるわけです。その共通語を使って、そこに居合わせた人たちが即席のチームを作り、尊い命を救うのです。

新ガイドラインでは、蘇生の概念がシンプルに非常にわかりやすくまとめられています。従来に比べて G2000 では電気ショ



ック（早期除細動）の重要性を強調していましたが、新ガイドラインでは、これに加えて BLS と ALS を通して、適切な胸骨圧迫（従来でいう心臓マッサージ）が絶え間なく行われることを強調しています。

ICLS は日本救急医学会が展開しているコースで、一般目標は「突然の心停止に対して最初の 10 分間の適切なチーム医療を習得する」です。そのため、心停止に特化したものとなっています。多くのコースでは、チーム医療を重視する意味から、医師だけではなく、看護師、救急救命士、その他の医療関係者が同時に受講しています。

本コースでも、9 施設の医師・看護師・臨床工学技師・救急救命士など 48 名が受講し、20 名の見学者の方々が参加されました。

当院開催 3 回目を迎え、当地区の本コース開催に当たって密かに思っていることがあります。今まで受講された診療所勤務看護師の方々のご意見より、診療所勤務の方の需要は少し異なっていると感じました。一次救命処置（BLS+AED）のみに重点を置いたコースが、役に立つと思えました。その需要はあると考えますので、二次救命処置コースとは別コース仕立てで開催しても良いのかと思います。AHA の AED コースのような 3 時間コースは最適





と思います。ぜひ医師会と協賛で定期的な訓練が実施できればと思います。当地区の方々とのコミュニケーションの場となり、そんな人とのつながりに何か素敵な名案も出てくるかもしれない！と密かに思っています。

蘇生の現場における共通の目標は「生命の危機に瀕した人を社会復帰させる」です。共通の目標に向かって、受講がゴールではありません。自らが後悔しないために、より多くの人を救うためには、とにかくトレーニングが必要です。受講されたらスタッフ参加し、人に教える事によって実技も学びも身につけていきます。ディスカッションを通し、感動したり、意見の衝突があったり、まさに切磋琢磨です。他施設、他職種の方々と学びを共にできるって素晴らしいです。

今後とも、鶴岡地区医師会の皆様をはじめ医療関係者の皆様が、二次救命処置の講習会を積極的に受講される事を願います。私のような立場のものに、貴重な原稿スペースを頂き感謝しております。



私のお勧めの店 その24

横山 靖

今月の内容に入る前に、先月の原稿の補足がある。フランス語では最後の子音を読まないと書いたので、MOET & SHANDONの最後のNは読まないのでは？ と思った方がいる かもしれない。でもフランス語ではom, onは鼻母音になってオンと読むのである。さらに&はエと読むので、モエ・エ・シャンドンと読むのである。

さて今月のお勧めのお店だが、いろいろ迷った挙句、鶴岡は羽黒街道沿いにある『あづま食堂』さんの鴨汁麦切りにしようと思う。なぜ迷ったか？それは私がダイエット中で新しいお店を開拓していないから、ということと、この鴨汁麦切りがダイエット中の身には意外とコッテリしているのからである。わかりやすくいえば鴨汁麦切りは『うまい！』・・・が、やせるにはただの麦切りの方がいいだろうな、でもやっぱり鴨汁が食べたいな、んーどうしよう??といったところである。

この一品のポイントはなんとといっても鴨汁。つまり麦切りを普通のツユではなく、合鴨から取ったダシと鴨肉と炒めたネギの入った、やや甘めにしたてられたコッテリしたツユで食べることである。同様なメニューは、他のお店にも鴨ザルや鴨麦切りとして見かけるが、『あづま食堂』さんの鴨汁は、惜しげもなくタップリと鴨を使った、鴨の旨味にあふれた味わいが素晴らしいのである。他の店とは鴨のエキスの濃さがまったく違うように思う。甘みの塩梅も妙に高級店ぶらず、素直に美味しいと思える、しっかりした味付けになっている。だから、麦切りを食べ終えてから蕎麦ツユ(麦切りツユ?)を足して飲む鴨汁のおいし

さもひとしおである。これから秋から冬にかけては鴨のおいしい季節であるので、ぜひ食していただきたい一品である。ただ、鴨汁麦切りを前にして思うことがある。上述したように、私はダイエット中である。毎朝、美咲町から三川のジャスコまで自転車で走る。途中は庄内平野の田んぼの農道である。6～7月にかけては、無農薬農業ということで田んぼでは合鴨たちが大活躍していた。8月になり稲の穂がなりはじめ、田んぼにも水がなくなると、合鴨たちは三川町の東沼あたりに、柵にいれられ一箇所に集められていた。もう、グァー、グァーとにぎやかだった。それが毎朝、自転車で通るたびに合鴨は減っていった。そして9月にはいなくなってしまった。もしかすると、目の前にある鴨汁はあの合鴨かもしれない。でも大切なのは可哀想に思うことではない。感謝して食べることである。感謝して汁の一滴まで残さず飲み干すことである。確かに合鴨は可愛い、でもだから牛や豚が可哀想でないわけではない。ブロイラーの鶏だって同じである。無駄にせず、おいしく食べてあげることが一番。・・・しかし、こうして残さず食べ尽くしている私は、またもやせられないジレンマに陥るのである。

あづま食堂

住所 鶴岡市神明町4-11

TEL 0235-24-5115

表 紙

「鳥海山麓の一ノ滝（遊佐町）」

事務局次長 佐藤 耕一

鳥海山・南山麓の「二ノ谷溪谷」はうっ蒼としたブナ林に覆われた幽玄な森と大小11の滝が点在していることで知られている。

なかでも「一ノ滝」「二ノ滝」は、市販されている道路地図帳にも載っており、手ごろなハイキングコースとして訪れる人も多い。

～ 編集後記 ～

岡田 恒人

10月に入りようやく秋らしい気候となってきました。それでも、まだまだ西のほうでは最高気温が30度を超えると朝の天気予報では伝えていました。以前より異常気象といわれていましたが、今年はさらに輪を掛けて感じられます。これから先、平均気温が上がり日本の一部が亜熱帯化してくると今まで経験しなかった（というより忘れ去られた）感染症が出てくるのではないかと余計な心配をしてしまいます。感染症というと今月からインフルエンザの予防接種が始まります。ぜひとも多くの方に受けていただき感染拡大をふせぎたいものです。一時期H5N1鳥インフルエンザ、新型インフルエンザが騒がれましたが最近はあまり話題に登らなくなりました。しかし世界中でH5N1鳥インフルエンザは拡大しており危険が去ったわけではありません。むしろ新型インフルエンザの発生は時間の問題と考えられています。国、県でも新型インフルエンザに対するマニュアルを作るなど準備を進めていますが、発生時に具体的対応ができるまでにはいたっていません。その中で庄内地方では庄内保健所が中心となり鶴岡・酒田地区医師会、各医療機関、行政機関が集まり昨年度より勉強会を開きました。今年からは新型インフルエンザ医療対策検討会議に名称変更し会議を行い、発生時には具体的行動が取れるように準備が進められています。発生した場合庄内地区では3万から6万人程度の患者が想定されており、一旦発生するとただ事ではすまなくなります。準備万端としておきたいものです。

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・斎藤憲康・五十嵐裕・福原晶子・岡田恒人

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町27-1 TEL 22-0936(代)